

世界史研究推進委員会

共同研究

「世界史における異文化との接触と交流—ヨーロッパとの出会い—」および「世界史への興味・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

研究推進委員長 大清水高校 堀 部 宏 人

二〇〇五年度の世界史研究推進委員会の研究活動を振り返ると、身近な素材やテーマを普段と異なる切り口で授業に取り込もうとする工夫が目立ちました。また、情報機器などの活用も増え、世界史に対する生徒の興味・関心を高め、より知識・理解を深める効果が感じられました。恒例の本委員会メンバーによる夏期講座では今回は「交流の世界史」と銘打ち、とかく政治中心に眺めがちな歴史を生活や文化の側面から捉えた公開授業を行いました（別稿）。さらに新しい試みとして、近年の歴史研究の成果で教科書の記述がどのように変わったかを検証しています。かつて生徒として学んだ七〇年代の教科書と現在のものを比較すると、随所に大きな歴史像の変化が見られます。インド洋海域世界や東南アジアなどこれまであまり触れられていない地域や「主権国家体制」「近代世界システム」といった新しい概念が登場してきたこと、モンゴルやイスラーム、市民革命やナショナリズムの捉え方の変化など枚挙にいとまがありません。一部はすでに研究発表会お披露目しましたが、いずれも活字になる予定です。

このほか定例の研究会では、各委員からの授業プリントの持ち寄

りや大阪大学での研修報告（別稿の大阪大学「世紀COE企画」など活発な情報交換も行っております。関心を持たれる先生方の飛び入り参加をお待ちします。なお本年度に開催された七回の研究会で発表された内容は次のとおりです。

「建物から考える歴史—視聴覚教材の使用・基本となる歴史用語を考える—」 木村 芳幸・松木 謙一（柏陽）

「世界史における旧説と誤解」 小林 克則（厚木商業）

「シルクロードの今」 佐藤 雅信（寒川）

「世界史における旧説と誤解（2）—近現代を中心に—」

小林 克則（厚木商業）

「映画鑑賞を通じた近現代史の指導法の研究

—西部劇映画を中心として—」 根岸 洋史（神田）

「近代ヨーロッパ史記述の変化—山川教科書を中心に—」

手塚 尚（上矢部）

「世界史学習における音楽教材の活用法とその課題

—ヨーロッパとアジアの比較を通じて—」

大久保敏朗（厚木）

本年度は次の学校を研究推進委員会の会場として使用させていただきました。柏陽高校（第一回・四月二〇日 第三回・七月一三日 第七回・二月八日）、川崎高校（第二回・六月二二日；日本史研究推進委員会と合同）、外語短大付属高校（第四回・八月二四日 第六回・一二月七日）、新城高校（第五回・一〇月五日）お礼を申し上げますとともに、今後ともご理解・ご協力をお願いいたします。